

令和元年度  
教育に関する事務の管理及び執行の  
点検及び評価報告書

令和2年8月17日  
長岡市教育委員会



# 教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

## 1 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年度から教育委員会は毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、令和元年度の長岡市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、長岡市教育委員会事務評価委員会の意見等を付して、報告するものです。

### 【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関連条文抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検及び評価の方法

### (1) 点検及び評価の対象

点検及び評価は、長岡市教育委員会が執行している事務・事業のうち、「長岡市教育振興基本計画」（平成28年4月策定）に掲げた施策を中心に行いました。

### (2) 点検及び評価の手順

令和2年4月から令和2年8月にかけて、令和元年度に長岡市教育委員会において執行した事務について、次の手順で点検及び評価を行いました。

教育委員会事務局における点検の実施



教育委員への点検内容の報告



事務評価委員会による点検及び評価



教育委員会による評価報告書の決定



市議会への報告及び公表



# 長岡市教育委員会事務評価委員会 委員

委員長 熊倉 達也

副委員長 渡辺 美子

委員 高野 真規

## 【目 次】

### I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

1	教育委員会 4 月臨時会（平成31年 4 月 1 日開催）	1
2	教育委員会 4 月定例会（平成31年 4 月19日開催）	1
3	教育委員会 5 月定例会（令和元年 5 月27日開催）	1
4	教育委員会 6 月定例会（令和元年 6 月27日開催）	2
5	教育委員会 7 月定例会（令和元年 7 月22日開催）	2
6	教育委員会 8 月定例会（令和元年 8 月21日開催）	3
7	教育委員会 9 月定例会（令和元年 9 月27日開催）	4
8	教育委員会10月定例会（令和元年10月24日開催）	4
9	教育委員会11月定例会（令和元年11月14日開催）	4
10	教育委員会12月定例会（令和元年12月 2 日開催）	5
11	教育委員会 1 月定例会（令和 2 年 1 月24日開催）	5
12	教育委員会 2 月定例会（令和 2 年 2 月14日開催）	6
13	教育委員会 2 月臨時会（令和 2 年 2 月26日開催）	6
14	教育委員会 3 月定例会（令和 2 年 3 月23日開催）	7
15	施設訪問	8
16	教育委員会協議会	9
17	総合教育会議	9
○	教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等	10

### II 教育委員会における事務の点検・評価について

1	郷土愛の醸成による人材の育成	11
1)	郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（学校教育課）	11
2)	米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出 （教育総務課・学校教育課・中央図書館）	11
3)	縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信（科学博物館）	12
4)	歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進（科学博物館）	13
5)	豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成 （科学博物館）	13
6)	歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館 （仮称）の整備（中央図書館）	14
7)	長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成 （学校教育課）	14
8)	子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進 （子ども・子育て課）	15
2	子ども・子育て支援の充実	15
1)	乳幼児や妊産婦への支援の充実（子ども・子育て課）	15

2)	特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実 (学務課・学校教育課・子ども・子育て課・保育課) ……………	16
3)	子育て家庭への経済的支援の充実 (学務課・子ども・子育て課・保育課) ……………	19
4)	多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり (子ども・子育て課・保育課) ……………	20
5)	保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保 (教育施設課・保育課) ……………	20
6)	放課後の児童の預かりサービスの充実(子ども・子育て課) ……………	21
7)	多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり(子ども・子育て課) ……………	22
8)	保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援(子ども・子育て課) ……	23
9)	これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実(子ども・子育て課) ……………	24
3	質の高い教育の推進……………	24
1)	熱中！感動！夢づくり教育の推進(学校教育課) ……………	24
2)	どの子にも分かる授業の実現(学校教育課) ……………	25
3)	地域の力、市民の力を生かした教育の推進(学校教育課) ……………	26
4)	「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実 (学校教育課) ……………	27
5)	学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備 (教育施設課) ……………	28
6)	通学路における児童・生徒の安全確保(学校教育課) ……………	28
7)	食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進 (学務課) ……………	29
8)	子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実 (学校教育課) ……………	29
9)	特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システムの充実(学校教育課) ……………	30
10)	私学の振興と家庭の教育費負担軽減(学務課) ……………	32
11)	長岡市SNSセーフティープログラムに関する取組 (学校教育課・子ども・子育て課・保育課) ……………	32
4	生涯にわたるまなびの場の充実……………	34
1)	市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備 (中央図書館・科学博物館) ……………	34
2)	民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備(中央図書館) ……………	34
3)	市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援(中央図書館) ……………	34
●	教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について……………	36

## I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

令和元年度に教育委員会定例会を12回、臨時会を2回開催した。65件の議案を審議し、協議報告事項は58件であった。また、施設訪問を9回実施し、17か所で授業参観・職員懇談・給食試食及び施設内視察を行った。さらに、教育委員会協議会を5回、総合教育会議を3回開催した。

審議の結果は、以下のとおりである。

### 1 教育委員会4月臨時会

- 日 時 平成31年4月1日（月曜日）  
午後3時から午後3時05分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 案 1件
  - ・職務代理者の指名について
  - ・議席の指定について

議案第21号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
--------	---------------	------

- 協議報告事項 0件

### 2 教育委員会4月定例会

- 日 時 平成31年4月19日（金曜日）  
午後4時から午後4時30分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 案 2件

議案第22号	長岡市子ども・子育て支援法に基づく業務管理体制の整備に関する事項の届け出に関する要綱の制定について	原案決定
議案第23号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 2件
  - ・教育に関する事務の点検及び評価方法について
  - ・令和元年度長岡市成人式について

### 3 教育委員会5月定例会

- 日 時 令和元年5月27日（月曜日）  
午後2時50分から午後3時45分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 案 7件

議案第24号	専決処理について（補正予算の要求について）	原案承認
議案第25号	条例改正の申出について（長岡市子育ての駅条例の一部改正）	原案決定
議案第26号	条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第27号	条例改正の申出について（長岡市児童館設置条例の一部改正）	原案決定
議案第28号	条例改正の申出について（長岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）	原案決定
議案第29号	補正予算の要求について	原案決定
議案第30号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

○ 協議報告事項 4件

- ・平成31年度全国学力・学習状況調査問題 長岡市教育委員会の分析概要について
- ・令和元年度長岡市成人式について（5月実施分）
- ・長岡市放課後児童健全育成事業運営費補助金交付要綱の一部改正について
- ・長岡市予防接種事故災害補償規程の一部改正について

4 教育委員会 6月定例会

○ 日 時 令和元年6月27日（木曜日）

午後3時から午後4時まで

○ 場 所 教育委員会会議室

○ 傍聴人 0人

○ 議 案 0件

○ 協議報告事項 6件

- ・教育委員会関係工事等の入札状況について
- ・高等総合支援学校生徒の通学支援について
- ・令和元年度熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾事業 夢企画事業」について
- ・オーストラリア競泳チームの事前キャンプ受入れと市民交流について
- ・長岡市子どもの学力アップ応援事業補助金交付要綱の制定について
- 附属機関等会議報告について
  - ・第1回長岡市子ども・子育て会議

5 教育委員会 7月定例会

○ 日 時 令和元年7月22日（月曜日）

午後1時30分から午後2時55分まで

○ 場 所 教育委員会会議室

- 傍聴人 1人
- 議案 3件

議案第31号	長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について	原案決定
議案第32号	令和2年度使用教科用図書の採択について	原案決定
議案第33号	事務の委任について	原案決定

- 協議報告事項 3件
  - ・ 6月議会における教育委員会関係の質問事項について
  - ・ 平成30年度長岡市の児童生徒の問題行動等について  
附属機関等会議報告について
    - ・ 第1回長岡市栃尾美術館協議会

## 6 教育委員会 8月定例会

- 日時 令和元年8月21日（水曜日）  
午前10時から午前11時30分まで
- 場所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議案 8件

議案第34号	平成30年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案決定
議案第35号	条例改正の申出について（長岡市学校給食共同調理場条例の一部改正）	原案決定
議案第36号	条例改正の申出について（長岡市立幼稚園条例の一部改正）	原案決定
議案第37号	条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第38号	条例改正の申出について（長岡市保育の必要性の認定の基準を定める条例の一部改正）	原案決定
議案第39号	条例改正の申出について（長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正）	原案決定
議案第40号	補正予算の要求について	原案決定
議案第41号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員 適と決定

- 協議報告事項 4件
  - ・ 令和元年度全国学力・学習状況調査結果概況について
  - ・ 令和元年度思春期向け次代の親育成事業の実施計画について  
附属機関等会議報告について
    - ・ 第1回長岡市図書館協議会
    - ・ 第1回長岡市寺泊水族博物館協議会

## 7 教育委員会 9月定例会

- 日 時 令和元年 9月27日（金曜日）  
午後 3時35分から午後 5時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 案 6件

議案第42号	長岡市保育園条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第43号	長岡市子どものための教育・保育給付の支給認定に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第44号	長岡市特定教育・保育施設、特定地域型保育事業者及び特定子ども・子育て支援施設等の確認等に関する要綱の制定について	原案決定
議案第45号	長岡市立幼稚園預かり保育実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第46号	長岡市立幼稚園授業料減免要綱の廃止について	原案決定
議案第47号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 5件
  - ・ 9月議会における教育委員会関係の質問事項について
  - ・ 令和元年度全国学力・学習状況調査結果分析と長岡市教育委員会としての取組について
  - ・ 長岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業者の確認等に関する要綱の廃止について  
附属機関等会議報告について
    - ・ 第1回長岡市熱中！感動！夢づくり教育推進会議
    - ・ 第1回長岡市文化財保護審議会

## 8 教育委員会10月定例会

- 日 時 令和元年10月24日（木曜日）  
午後 2時30分から午後 3時05分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 案 0件
  - ・ 議席の指定について
- 協議報告事項 2件
  - ・ 家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール審査会結果について
  - ・ 「スポーツによるまちづくりの推進に関する協定」締結式の開催について

## 9 教育委員会11月定例会

- 日 時 令和元年11月14日（木曜日）  
午後 1時30分から午後 3時まで

- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 案 1件

議案第48号	補正予算の要求について	原案決定
--------	-------------	------

- 協議報告事項 3件
  - ・令和2年度新規事業等について
  - ・長岡市実費徴収に係る補足給付事業費補助金交付要綱の制定について  
附属機関等会議報告について
    - ・第2回長岡市子ども・子育て会議

#### 10 教育委員会12月定例会

- 日 時 令和元年12月2日（月曜日）  
午前9時から午前11時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 案 1件

議案第49号	令和2年度当初予算の要求について	原案決定
--------	------------------	------

- 協議報告事項 2件
  - ・令和4年度以降の長岡市成人式の実施について  
附属機関等会議報告について
    - ・第1回長岡市スポーツ推進審議会

#### 11 教育委員会1月定例会

- 日 時 令和2年1月24日（金曜日）  
午後3時05分から午後4時25分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 案 2件

議案第1号	専決処理について（長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱の一部改正）	原案承認
議案第2号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員 適と決定

- 協議報告事項 10件
  - ・12月議会における教育委員会関係の質問事項について
  - ・令和2年度全国学力・学習状況調査の参加について
  - ・令和元年度長岡市の子どもたちの体力について
  - ・平成30年度児童生徒の問題行動等の現状について（全国・県との比較）

- ・令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰について
- ・企業主導型保育所の新規開設について
- ・長岡市少年スポーツ活動ガイドライン「NAGAOKA SPORT Compass」の策定について（共同記者発表の報告）  
附属機関等会議報告について
  - ・第2回長岡市栃尾美術館協議会
  - ・長岡市馬高・三十稲場遺跡整備活用委員会
  - ・第3回長岡市子ども・子育て会議

## 12 教育委員会 2月定例会

- 日 時 令和2年2月14日（金曜日）  
午後2時25分から午後3時20分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 案 5件

議案第3号	条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第4号	条例改正の申出について（長岡市立幼稚園条例の一部改正）	原案決定
議案第5号	条例廃止の申出について（長岡市立へき地保育園条例の廃止）	原案決定
議案第6号	条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）	原案決定
議案第7号	補正予算の要求について	原案決定

- 協議報告事項 3件
  - ・令和2年度長岡市教育委員会当初予算の概要について
  - ・長岡市立小中学生のスポーツ実施に関する調査結果について
  - ・長岡市スポーツ推進委員・スポーツ普及員の改選（委嘱）について

## 13 教育委員会 2月臨時会

- 日 時 令和2年2月26日（水曜日）  
午前10時30分から午前11時30分まで
- 場 所 アオーレ長岡東棟4階 第二応接室
- 傍聴人 0人
- 議 案 1件

議案第8号	校長、教頭の人事異動の内申について	原案決定
-------	-------------------	------

- 協議報告事項 2件
  - ・令和元年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について
  - ・令和2年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践事項について

#### 14 教育委員会 3月定例会

- 日 時 令和2年3月23日（月曜日）  
午後1時30分から午後3時50分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 案 28件

議案第9号	専決処理について（職員人事について）	原案承認
議案第10号	長岡市教育委員会組織規則の一部改正について	原案決定
議案第11号	長岡市子ども・子育て会議条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第12号	長岡市予防接種健康被害調査委員会規則の一部改正について	原案決定
議案第13号	長岡市ファミリー・サポート・センター事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第14号	長岡市青少年育成センター運営規程の廃止について	原案決定
議案第15号	長岡市保育園条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第16号	長岡市立幼稚園管理運営に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第17号	長岡市立へき地保育園条例施行規則の廃止について	原案決定
議案第18号	長岡市立保育園延長保育事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第19号	長岡市立保育園における苦情解決体制に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第20号	長岡市立幼稚園預かり保育実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第21号	長岡市教育委員会公印規則の一部改正について	原案決定
議案第22号	長岡市教育委員会の職員の職名に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第23号	長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	原案決定
議案第24号	長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱及び長岡市教育委員会一般職非常勤職員の任用等に関する要綱の廃止について	原案決定
議案第25号	長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第26号	長岡市立中学校部活動指導員の任用等に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第27号	長岡市家庭児童相談員設置要綱の一部改正について	原案決定
議案第28号	長岡市保育料等嘱託徴収員設置要綱の一部改正について	原案決定
議案第29号	長岡市地域資料館条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第30号	長岡市平成23年度における子ども手当の支給等に関する特別措置法等の施行に関する規則の廃止について	原案決定
議案第31号	長岡市教育委員会職員駐車場利用規程の制定について	原案決定

議案第32号	長岡市地域学校協働活動推進員設置要綱の制定について	原案決定
議案第33号	長岡市産前産後家庭生活応援事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第34号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
議案第35号	事務の委任について	原案決定
議案第36号	補正予算の要求について	原案決定

○ 協議報告事項 12件

- ・ 3月議会における教育委員会関係の質問事項について  
長岡市が制定する要綱の全部改正・一部改正及び廃止について

【全部改正】

- ・ 長岡市全国大会等出場者に対する助成金交付要綱

【一部改正】

- ・ 長岡市私立高等学校学費助成要綱
- ・ 長岡市立中学校部活動遠征費補助金交付要綱
- ・ 長岡市子どもの学力アップ応援事業補助金交付要綱
- ・ 長岡市放課後児童健全育成事業運営費補助金交付要綱

【廃止】

- ・ 長岡市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱及び長岡市私立幼稚園就園費助成要綱

附属機関等会議報告について

- ・ 第2回長岡市熱中！感動！夢づくり教育推進会議
- ・ 第2回長岡市図書館協議会
- ・ 第2回長岡市文化財保護審議会
- ・ 第2回長岡市寺泊水族博物館協議会
- ・ 第4回長岡市子ども・子育て会議

15 施設訪問

○ 17か所を訪問

【内訳】 認定こども園2、小学校7、中学校5、その他施設3

- (1) 令和元年5月27日（月曜日）  
青葉台中学校、山本中学校
- (2) 令和元年6月27日（木曜日）  
小国小学校、東谷小学校
- (3) 令和元年7月22日（月曜日）  
蔵王のもりこども園
- (4) 令和元年9月27日（金曜日）  
柿が丘学園、産後デイケアる～むままりラ西
- (5) 令和元年10月24日（木曜日）  
浦瀬小学校、岡南小学校
- (6) 令和元年10月31日（木曜日）  
埋蔵文化財収蔵センター、西中学校、黒条小学校

- (7) 令和元年11月14日（木曜日）  
ひごし中央こども園
- (8) 令和2年1月24日（金曜日）  
南中学校、大島中学校
- (9) 令和2年2月14日（金曜日）  
宮内小学校、神田小学校

#### 16 教育委員会協議会

- 5回開催
- (1) 令和元年6月13日（木曜日）教育委員会会議室  
・平成30年度教育に関する事務の管理、執行の点検及び評価について
- (2) 令和元年9月27日（金曜日）教育委員会会議室  
・熱中！感動！夢づくり教育の見直し（案）について
- (3) 令和元年11月14日（木曜日）教育委員会会議室  
・教育大綱の策定について
- (4) 令和2年1月9日（木曜日）教育委員会会議室  
・次期教育大綱の策定について
- (5) 令和2年2月14日（金曜日）教育委員会会議室  
・次期教育大綱の策定について

#### 17 総合教育会議

- 3回開催
- (1) 令和元年11月20日（水曜日）アオーレ長岡東棟4階 第二応接室  
・次期教育大綱の策定について
- (2) 令和2年1月15日（水曜日）アオーレ長岡東棟4階 第二応接室  
・次期教育大綱の策定について
- (3) 令和2年2月26日（水曜日）アオーレ長岡東棟4階 第二応接室  
・次期教育大綱の策定について

### ＜教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等＞

- 会議において、教育や子育て支援に関する新制度の概要や児童生徒の現況を速やかに報告するなど、教育委員と教育委員会事務局の情報共有を進め、審議の活性化に努めた。会議では、議案及び協議報告事項に対し、各委員から積極的な発言があり、十分な審議がなされた。
- 会議録はホームページで公開しており、協議報告事項なども詳しく掲載し、審議の透明性を高めている。
- あらかじめ年間計画を立て定例会と施設訪問を開催することにより、教育委員全員が参加することができた。
- 学校訪問では、生徒指導や学力など学校運営上の課題を詳細に聞き取り、現場の状況を把握することに努めた。また、学校との意見交換では、より良い学校づくりに向け、訪問校ごとに教育活動の目標や課題をテーマとして設定し、より深い議論ができた。
- 幼保連携型認定こども園の訪問では、園児の活動の様子を見学し、認定こども園における保育状況の確認を行った。また、産後デイケア事業を行う施設の訪問では、園長や助産師等と懇談することで、母親に対する支援の状況等を確認することができた。
- 「施設訪問の日」として、閉校した校舎を整備した埋蔵文化財収蔵施設や小学校での英語の授業、増築及び大規模改造工事を実施している校舎など教育委員会のタイムリーな事業の視察を行い、教育委員がより教育現場の現状を把握することができた。
- 各委員は成人式や表彰式などの教育委員会行事、各課の実施事業、学校の周年行事に積極的に出席した。また、文部科学省などが開催する研修会にも積極的に参加し、国の動向や他自治体の取組などについての理解を深めた。
- 教育委員の意見を教育行政により反映させるため、教育委員会協議会を開催した。協議会で出た意見は各課の施策等に反映した。
- 教育施策の基本方針である教育大綱の改定にあたり、総合教育会議において、市長と教育委員会が議論を重ねるとともに、教育の充実・向上のための意見交換を行うことができた。
- 新たな教育大綱では、「自分だけでなく他人や社会の幸せも作り出すことが大切である」という思いを込めた基本理念は前教育大綱から引き継ぐこととし、基本方針は教育や子育て環境の変化などを踏まえて見直しを行った。教育大綱に基づき、長岡の未来を担う子どもたちのために教育と子育て支援の一貫した施策を更に推進していく。

## II 教育委員会における事務の点検・評価について

平成28年4月に策定した「長岡市教育振興基本計画」に定めた施策を中心に点検・評価を行った。

具体的には、各章ごとの「施策の内容」について、令和元年度における取組内容等を点検・評価したものである。

点検・評価の結果は、以下のとおりである。

### 1 郷土愛の醸成による人材の育成

#### 1) 郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（担当：学校教育課）

##### <令和元年度の取組>

○調べる！出かける！学ぶ！「ながおか学」の冊子を小学校5年生全員に配付するとともに、各校の活用状況や活用方法を紹介する取組を行い、地域性や学校の独自性を生かした活用の充実を図った。令和元年度は、長岡の工業の特色など複数箇所での修正を行った。また、年度末、全市立学校に活用に関する教職員アンケートを実施した。

○学校・子どもかがやき塾夢企画事業等を活用し、学校、家庭、地域、NPO等が連携し、子どもの継続的な体験活動の場の充実に努め、ふるさとへの愛着と誇りを育む教育活動に全校が取り組んだ。

##### <成果及び今後の取組等>

○調べる！出かける！学ぶ！「ながおか学」の冊子は、全市立学校で、主に社会科や総合的な学習の時間に、地域での調べ学習や施設見学等のガイドブックとするなど、幅広い用途での活用につながった。今後は教職員に実施したアンケートの活用状況を踏まえて、児童生徒がふるさと長岡への愛着や誇りをもち、地域に貢献する志を育てることにつながる内容の精選・充実を図る。

○各学校が創意・工夫を凝らして地域の特色や伝統文化等について学ぶ機会を設定したり、保護者や地域、NPO等と連携したりすることで、体験活動や学習活動の充実を図り、やる気や学ぶ意欲を引き出すことにつながった。

○保護者や地域の方を招いた発表会や市内外への発信活動を通して表現力や自信を高めるとともに、ふるさとのよさや魅力を再発見しながら愛着や誇りを育んだ。

#### 2) 米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出

（担当：教育総務課・学校教育課・中央図書館）

##### <令和元年度の取組>

○次世代に米百俵の精神を伝承するため、（公財）長岡市米百俵財団との連携により、市内小学校を対象に、授業で活用できる米百俵読本やDVDアニメの配付を行ったほか、令和元年度、市内小学4年生から中学3年生を対象とした人材育成事業「米百俵未来塾」を開校し、米百俵の史実を学ぶ講座を実施するな

ど、普及・啓発活動につなげた。(教育総務課)

○教職員を対象に、米百俵の精神を伝える研修講座を開設した。(学校教育課)

○米百俵の精神を全国に発信する拠点の整備に向け、中心市街地整備室と連携して、「米百俵プレイス(仮称)」の基本計画・実施設計について検討を行った。  
(中央図書館)

#### ＜成果及び今後の取組等＞

○読本やDVDは、ほぼすべての学校が総合的な学習の時間や社会科等の授業で活用し、「子どもたちにとってわかりやすい内容だった。」「学習資料として有効に活用できた。」「長岡市民として知っておくべきことがわかりやすくまとめられている。」等の評価を受けた。今後も継続的に授業等での活用を呼びかけていく。(教育総務課)

○米百俵未来塾は第一期生46名が参加し、米百俵の史実や精神に加え、故事が生まれた背景や当時の長岡の人々の想いについて学びを深めた。今後も引き続き、社会教育の枠組みの中での子どもたちへの普及啓発事業として続けていく。  
(教育総務課)

○教育センター研修講座「復興の町長岡～北越戊辰戦争、米百俵の精神～」に14名の教職員が参加した。参加した教職員は、講座を通して、人づくり、学校づくりを大切にしてきた長岡の志を学んだ。(学校教育課)

○米百俵の精神の伝承・発信の方策について、「米百俵プレイス(仮称)」の人づくり・学びの拠点としての図書館の在り方を考える中で、今後検討していく。  
(中央図書館)

### 3) 縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信(担当:科学博物館)

#### ＜令和元年度の取組＞

○大英博物館に貸出中の、市内の遺跡から出土した火焰型土器等のコンディションを確認するとともに、令和4年まで3か年の貸出期間延長を行った。また、世界遺産ストーンヘンジ等での火焰型土器の展示についての協議を進めた。このほか、馬高縄文館で縄文文化に関する特別展や講演会を開催し、地域住民が中心となって開催している「縄文の丘マラソン」や「関原楽市縄文まつり」とも連携し、市内外への情報発信に努めた。また、外部アドバイザーを活用する取組として、開館当初より馬高縄文館の名誉館長に小林達雄氏(國學院大學名誉教授)から継続して就任いただいております。令和元年度も数々の助言とともに各媒体における情報発信に尽力してもらった。

○寄贈を受けた縄文関連図書の選別や目録作成などを行った。令和元年度は総量の約8%にあたる3,800冊分の目録化を行い、活用に向けた準備を進めた。

#### ＜成果及び今後の取組等＞

○世界中から年間600万人が訪れる大英博物館との展示を通じた交流により、長岡の火焰型土器や縄文遺跡を世界に向けて発信することができた。今後も、長岡の歴史的遺産である火焰土器や縄文遺跡をシティプロモーションのツール

と位置づけ、国内外に向けた発信を強化していく。また、信濃川火焰街道連携協議会と連携し、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全国に火焰土器を含む日本遺産をPRしていく。

- 縄文関連図書の目録作成などにより、誌名などの情報や数量の把握、また、活用に向けた分類などを進めることができた。今後も作業を継続し、早期の活用を目指す。

#### 4) 歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進（担当：科学博物館）

##### ＜令和元年度の取組＞

- 歴史的建造物を紹介する冊子の配布やホームページでの公開を通して、継続して情報を発信した。
- 国重要文化財「旧長谷川家住宅」において、「草笛@長谷川邸」のイベントや企画展「長谷川家と昭和大礼」を開催し、同展では1,177人の来場者があった。
- 10月22日に李崎御神楽保存会ほか8団体による郷土民俗芸能公演会をリリックホール・シアターで開催し、130人の来場者があった。また、インターネット上に市内民俗芸能の動画の配信や、各地域での公演日時などを載せるなど、市内内外に対しての情報発信を行った。

##### ＜成果及び今後の取組等＞

- 歴史的建造物についての情報発信を行うことができた。今後も、情報発信を継続し、その価値・魅力について伝えていく。
- 文化財を活用した普及活動等を推進することができた。今後も、その取組を継続し、歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用の促進に努める。
- WEB上での情報発信や公演会の開催などを通じて、今後も、多くの市民に民俗芸能の魅力や継承・保存の大切さを伝えていく。

#### 5) 豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成（担当：科学博物館）

##### ＜令和元年度の取組＞

- 科学博物館では、長岡の自然や歴史を知る機会を提供するため「新収蔵資料展」、「長岡の昆虫」、「雪華図案の世界」等の企画展を開催した。（年間の入館者は延べ28,335人）
- 科学博物館・馬高縄文館・寺泊水族博物館等で年間を通じて市民を対象とした普及活動を行い、多くの参加があった。また、市内の学校等に学芸員を派遣する事業を実施するとともに、学校が施設を利用する機会を提供し、多数の利用があった。（年間普及活動等参加者数は延べ10,082人）

##### ＜成果及び今後の取組等＞

- 科学博物館の令和元年度の年間入館者は昨年度に比べて減少したものの、「新収蔵資料展」において悠久山公園開園100周年にちなむ資料を公開するなど、時宜に応じた展示により、市民が博物館に足を運ぶ機会を提供することができ

- た。今後も、時宜に応じた多様な分野の展示を継続的に行うとともに、周知に力を入れ、より広範囲に情報発信を行い、博物館利用の更なる促進につなげる。
- 令和元年度の年間普及活動参加者数は昨年度より増加しており、普及活動を通じて、地域の自然や歴史、文化に触れる多様な機会を提供することができた。今後も様々な分野の普及活動を開催し、幅広い年齢層に向けて学習の機会を提供していくとともに、科学博物館のホームページ、SNSを活用しての周知を強化し、博物館利用の更なる促進につなげる。

## 6) 歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館 (仮称)の整備(担当:中央図書館)

### <令和元年度の取組>

- 『長岡市史双書No.59』を刊行するとともに、郷土長岡に関する歴史資料を活用して、「古文書のいろは」、「古文書に見る長岡のすがた」、「長岡市史双書を読む会」などの歴史講座を9回開催した。
- 長岡市災害復興文庫の運営・充実に向け、国立国会図書館のデータベース(東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」)に中越大震災の写真資料を191点掲載した。また、市民協働で歴史資料の保存に取り組んできた長岡市資料整理ボランティアと十日町市のボランティアとの13回目の交流会を十日町市で実施した。

### <成果及び今後の取組等>

- 年間を通じて歴史資料の整理・保存・公開の取組を進め、目録作成が終了したことを機関紙等を通して紹介し、市民の郷土史研究への活用を促した。
- 歴史資料整理等に延べ159人の長岡市資料整理ボランティアが参加し、市民協働で歴史資料を整理・保存・活用する取組がより一層図られた。
- 災害復興文庫について、引き続き全国の関係機関・団体と連携して、資料の充実・情報の発信に努めていく。また、文書館(仮称)の整備に向けて検討を進めていく。

## 7) 長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成 (担当:学校教育課)

### <令和元年度の取組>

- 冊子「ながおか学」配付時に、平和学習での活用例を全小学校に紹介した。教職員向けの研修に平和教育を位置付け、長岡空襲についての理解を深めたり、戦災資料館の活用を呼びかけたりした。

### <成果及び今後の取組等>

- 戦災資料館の見学や平和劇の発表など、学校ごとに工夫した取組が行われた。教育センター研修講座「長岡の平和教育～未来に伝える長岡空襲～」の工夫を図るなど、今後も、児童生徒及び教職員への周知を継続する。

## 8) 子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進 (担当：子ども・子育て課)

### <令和元年度の取組>

- 小学生リーダー養成事業として、川口地域でのサマーキャンプに52人の小学生が参加するとともに、スタッフとして中高生リーダーが15人参加した。また、青少年の健全育成を目的に組織されている2団体に補助金を交付した。さらに、市内19地域の青少年育成団体の各活動に対し活動報奨金を交付した。
- 長岡地域では、ニュータウン運動公園で様々な遊びを体験できる「子どもフェスティバル」を開催し、610人が参加した。支所地域では、小・中学生とその保護者を対象にした23の様々な体験講座を開催し、延べ2,324人が参加した。

### <成果及び今後の取組等>

- 地域間・世代間交流を通じて、小・中・高校生など各世代のリーダーを養成した。また、団体への補助金や活動報奨金の交付により、市全域及び各地域における青少年育成活動の更なる発展に寄与した。今後も、地域人材や地域資源を活用した事業の支援を行う。
- 集団活動や体験活動を通して、子どもたちに自律性と社会性を学ぶ機会を提供することができた。今後も、より多くの子どもたちが様々な体験に参加できるように継続して事業を行う。

## 2 子ども・子育て支援の充実

### 1) 乳幼児や妊産婦への支援の充実 (担当：子ども・子育て課)

#### <令和元年度の取組>

- 妊娠から出産・育児まで切れ目ない支援を行う長岡版ネウボラ<sup>※1</sup>の産後の主要な事業として、産後ケアコーディネーターを2人配置し、産前産後のサポートをきめ細かく実施した。また、子育て支援センターでの「ままナビ」を新たに4か所増設し10か所で実施した。
  - ・産後デイケアる～む「ままりラ」<sup>※2</sup> 300回実施 実179人 延べ1,045人利用
  - ・産後デイケアる～む「ままりラ西」<sup>※2</sup> 200回実施 実177人 延べ 773人利用
  - ・産後デイケアる～む「ままナビ」<sup>※2</sup> 199回実施 実 93人 延べ 382人利用
  - ・子育て支援センター「ままナビ」(10か所)<sup>※2</sup>  
51回実施 延べ 472人利用
  - ・「ままのまカフェ」<sup>※2</sup> 188回実施 延べ1,715人利用
  - ・産後ケア訪問 実人員9人 29回
  - ・産前産後寄り添い支援訪問 実人員10人 77回

※1 ネウボラ

男女共同参画の先進国で女性のほとんどが働くフィンランドで実施されている妊娠・出産・育児を切れ目なく支援する制度のこと。アドバイス(neuvo)する場所という意味。日本国内の各自治体でも同様の取組が始まっている。

※2産後デイケアる〜む「ままりら」・「ままナビ」、「ままのまカフェ」

ままりらは、産後ケアコーディネーターが保健師や助産師などと一緒に、産前及び産後の母親の心身のサポートを行う場。ままナビは、保育士から具体的な育児の仕方や保育園での過ごし方等について学ぶ場。ままのまカフェは、母子保健推進員が子どもを預かり見守る中で、保護者同士が情報交換等ゆったりとした時間を過ごしてもらう場。

- 健康の保持増進のため、妊婦健康診査、4・10か月健診、1歳6か月児健診、3歳児健診、子どもの定期予防接種を行った。
- 身近な地域において、母子保健推進員が妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を実施した。
  - ・妊婦、赤ちゃん訪問活動 3,233件
  - ・子育て支援活動 204回 参加人数 1,714組
- 育児の情報提供や、妊婦疑似体験、沐浴体験を行い、夫婦と一緒に育児について学ぶ「パパママサークル」を開催した。
  - ・12回実施 参加者 妊婦261人 パートナー256人 祖母1人 子2人
- 家族で子育てをするために、子育てに関する情報などをまとめた父親・祖父母向けのリーフレットを配布した。

#### <成果及び今後の取組等>

- 「ままりら」は、利用を希望する妊産婦や産婦訪問の結果等から支援が必要な産婦のほとんどが利用している。利用者のアンケートでは、「悩みを相談でき、具体的なアドバイスをもらえてよかった。」、「相談することで不安を軽減できた。」、「産後や育児中のつらい時期を乗り越えることができた。」等の声が多くあり、母体の健康面や育児・発育に関しての悩みや不安が軽減された。また、「ままナビ」の増設によって、より身近な場所で子育てについて学ぶことができ、相談できる体制ができた。令和2年度は、産後デイケアる〜む「ままりら」の利用時間を午後8時まで延長する日を設けるとともに、宿泊型産後ケアを開始し、産後のサポートを更に充実させていく。
- ほとんどの妊婦が妊婦健診を受診し、安心・安全な出産につながった。
- 母子保健推進員が意欲的に子育て支援に取り組んでおり、地域全体で子育てを応援しようという意識が広がっている。
- 「パパママサークル」では、夫婦でお互いへの配慮をしようという意識や父親としての自覚の醸成につながった。
- 夫や家族も含めた支援が重要であることから、今後も家族ぐるみの子育てを支援していく。

## 2) 特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実

(担当：学務課・学校教育課・子ども・子育て課・保育課)

#### <令和元年度の取組>

- 特別支援学級への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。(学

務課)

・支給総額 21,167,112円

○本市の特別支援教育の現状や就学手続等の理解を深めるため、「特別支援教育ガイダンス」を就学前園児の保護者を対象に3日間実施した。また、特別な支援が必要な子どもの保護者、在籍園、就学先の専門相談員等と相談を重ね、適正な就学について支援した。(学校教育課)

・ガイダンス参加者数 121人

・就学相談(年長児・年中児) 197件

○柿が丘学園において、通所による児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業及び障害児相談支援事業等を行った。(子ども・子育て課)

・児童発達支援事業：契約児童数 55人 利用延数 4,252人

・保育所等訪問支援：契約児童数 16人 訪問延数 83件

・障害児相談支援：相談契約数 59人 計画作成 79件

モニタリング 164件

○特別な支援が必要な乳幼児の発達に関する不安や悩みごとに応じるため、「こども発達相談室」を運営し、保育士や言語聴覚士等が対応した。(子ども・子育て課)

・電話・来室相談 実件数 519件

○家庭児童相談員等が、乳幼児健診や子育ての駅等に出向いて相談を受けたり、子育てに不安を抱える母親同士のグループ支援活動を行ったりするなど、相談しやすい環境づくりに努めた。また、長岡市要保護児童対策地域協議会の関係機関が連携して、支援が必要な子どもや保護者に対し、適切な対応を行った。

(子ども・子育て課)

・相談対応 新規 実件数 444件(うち児童虐待131件)

継続 実件数 152件(うち児童虐待 73件)

○保育園・幼稚園・認定こども園等に在籍している特別な支援が必要な子どもに対する訪問支援「こどもすこやか応援事業」を実施し、在籍園とその保護者に対する支援を行った。(保育課)

支援児童数 199人 支援施設数 63園 支援延数 367件

○医療的ケア児の受け入れを公立保育園1園で行った。(保育課)

○就学前から就学後まで継続した児童支援のための「すこやかファイル」作成や小学校へのファイルの引継ぎを支援した。(保育課)

新規作成児童数(全年齢) 104人 就学期引継児童数 94人

○発達障害に関する理解と支援のために、保育士・幼稚園教諭・保育教諭・保健師・関係職員のほか、在園児の保護者(児の障害の有無に関わらず)にも対象を拡大した研修会を実施した。(保育課)

・7月13日(土) 参加者(支援者・保護者) 235人

・11月20日(水) 参加者(支援者) 104人

○配慮を要する児童を含む集団保育をより安全で良質なものにするため、配慮を

要する児童の見守り等を行う保育補助職員を配置した施設に対し、人件費の一部を補助する保育体制強化事業を実施した。(保育課)

事業実施園 19園 補助金総額 10,678千円

### <成果及び今後の取組等>

- 特別支援学級への就学において、今後も、保護者の経済的負担軽減のための支援を継続して行う。(学務課)
- 「特別支援教育ガイダンス」では、特別支援学級の現状を理解することができたと評価する声が多数聞かれた。ガイダンスを機に、就学相談を考える保護者も増え、特別な支援が必要な子どもの適切な就学につなげることができた。今後も、これらの取組を引き続き実施し、保護者に寄り添った支援を継続して行う。(学校教育課)
- 「こども発達相談室」での相談内容が多様化・複雑化する中で、関係機関と連携しながら対応することができた。今後も連携を強化しながら、保護者に寄り添った支援の充実を図る。(子ども・子育て課)
- 家庭児童相談室の運営においては、子育ての駅や産後デイケアる〜む「ままりら」と連携しながら、相談しやすい環境づくりを進めることができた。また、長岡市要保護児童対策地域協議会では、家庭の抱える様々な問題の多様化・複雑化に適切に対応していくため、地域の関係機関との連携によるネットワークづくりを推進していく。(子ども・子育て課)
- 「こどもすこやか応援チーム」による訪問支援を実施し、園や保護者に対して、子どもの特性や困り感についての理解促進と具体的な対応について相談したことで、よりよい成長を促すことができた。(保育課)
- 医療的ケアを受ける児童が、集団生活の中で様々な刺激を受けることにより、活動への意欲が促され心身の成長につながった。今後も、医療的ケア児のニーズに沿った受け入れ体制を整備していく。(保育課)
- 「すこやかファイル」の主旨や有用性が保護者・小学校に浸透したことで、ファイルの作成者が増加した。小学校への引継ぎもスムーズになり、子どもと保護者の学校生活への不安が軽減された。今後も「すこやかファイル」の活用を関係機関と進めていく。(保育課)
- 支援者と保護者が対象の研修会は、保護者の参加が増加した。当事者の保護者だけでなく、その他の保護者にも参加を促すよう広報し、「心のバリアフリー」を促進していく。(保育課)
- 保育体制強化事業を実施することで、配慮を要する児童の受け入れ支援及び保育士の負担軽減につながった。令和2年度からは、管理員等の保育の周辺業務も補助対象とし、さらなる保育士の負担軽減に資するため事業を行っていく。(保育課)

### 3) 子育て家庭への経済的支援の充実

(担当：学務課・子ども・子育て課・保育課)

#### <令和元年度の取組>

- 小・中学校への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、就学援助費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。(学務課)
  - ・支給総額 244,783千円
- 経済的理由などから課題を抱える子どもの情報を収集し、可能な支援を検討するとともに必要な支援につなぐ「子どもナビゲーター」を2名配置した。(子ども・子育て課)
- 生活困窮世帯の子どもたちの学習に係る経済的負担を軽減し、子どもの学力アップを応援するため、学校外教育サービス(学習塾等)の利用に係る経費に対し、補助金を交付した。(子ども・子育て課)
  - ・交付決定者 78人 補助金総額 7,800千円(1人10万円限度)
- 認定を受けた児童の保育料等の減額を維持し、国が示す保育料基準額に対し約35%軽減して保護者の経済的負担軽減を図った。(保育課)
  - ・国が示す保育料 約20億4,600万円
  - ・市の保育料 約13億3,800万円
  - ・保育料軽減額 約7億800万円(軽減率 約35%)
- 新制度に移行していない私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、各世帯の所得状況に応じて授業料及び入園料の一部を国と市で補助した。また、市単独で上乗せして私立幼稚園就園費助成金を支給した。(保育課)
  - ①私立幼稚園就園奨励費補助金(入園児に対する支給割合80%)
    - 支給対象者 28人 補助金総額 2,367,400円
  - ②私立幼稚園就園費助成金(市単独助成分)
    - 支給対象者 31人 補助金総額 314,100円

#### <成果及び今後の取組等>

- 小・中学校就学における保護者の経済的負担軽減のための支援について、今後も継続して行っていく。(学務課)
- 学校訪問によって課題を抱える子どもの実態を把握し、支援の必要な子どもについて関係支援機関につないだ。今後も、子どもナビゲーターを2名体制で配置し、支援を行っていく。(子ども・子育て課)
- 学校外教育サービス利用に係る経費の補助を受けた保護者からは、「塾に通わせることができ、希望の高校に合格できた。」「生活面の改善が図られた。」という声が多く寄せられた。保護者の経済的負担の軽減や子どもの学習意欲の向上も期待できるため、今後も事業を続けていく。(子ども・子育て課)
- 保育料を減額することで、保護者の経済的な負担をより軽減することができた。今後も国が示す保育料基準額に対し軽減を行い、保護者の経済的負担の軽減を図っていく。(保育課)

○幼稚園授業料及び入園料の一部を国と市が補助することで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。令和元年10月から実施された幼児教育保育の無償化に伴い、保護者の経済的負担は軽減されたため、令和2年3月末をもって事業は廃止した。(保育課)

#### 4) 多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり

(担当：子ども・子育て課・保育課)

##### <令和元年度の取組>

○仕事と育児の両立を支援するため、ファミリー・サポート・センターを運営した。また、ファミリー・サポート・センター事業を広く周知するため、交流会や講演会を実施した。(子ども・子育て課)

・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 3,266件

○新たな保育の担い手確保と保育補助者の資質向上のため、子育て支援員を認定する研修会を市が独自で開催し、70人が新たに認定された。保育所等に192人(令和2年3月1日時点)の子育て支援員を配置した。(保育課)

・「地域保育コース」 68人

・「地域子育て支援コース」 2人

##### <成果及び今後の取組等>

○ファミリー・サポート・センターでは、今後も、登録会員の拡大や事業の充実を図るため、交流会の実施や制度のPRを行っていく。(子ども・子育て課)

○今後も継続して子育て支援員を増やしていくことにより、増加する保育需要の受け皿確保と保育の質の向上に努めていく。また、保育の担い手を新規に掘り起こすため、子育て支援員研修の周知に努め、子育て支援員認定者に対して保育所等での就労を促していく。(保育課)

#### 5) 保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保

(担当：教育施設課・保育課)

##### <令和元年度の取組>

○安全・安心な保育環境を整えるため、こしじ保育園遊戯室非構造部材耐震改修工事や、山通保育園トイレ改修工事を行った。(教育施設課)

○快適な保育環境の整備を推進するため、下川西保育園の3歳以上児保育室及び新組保育園の事務室に冷房設備を整備した。(教育施設課)

○認定こども園の施設整備に対して財政的支援を行った。(保育課)

・ひごし中央こども園の増改築(※)

・蔵王のもりこども園の増改築(※)

・悠みどりこども園の創設

・みしま中央こども園の大規模修繕

・長生保育園の大規模修繕・改修

・柏こども園の改修

- ・大島こどもえんの改修

※ 鉄骨資材の不足により平成30年度から一部を繰り越したもの。

○私立保育園の施設整備に対して財政支援を行った。(保育課)

- ・寺泊保育園の増改築
- ・深沢保育園の防犯対策の強化・改修
- ・東部どんぐり保育園の改修
- ・希望が丘保育園の改修

○保護者の子育てと就労との両立を支援するために各種特別保育を実施した。  
(保育課)

- ・病児・病後児保育 7か所 1,497人
- ・休日保育 4か所 757人
- ・一時保育 30か所 4,239人
- ・障害児保育 18か所 35人

○子育て中の保護者に保育園を開放し、育児相談や子育てに関する情報提供等を行う子育て支援センター事業を継続して実施した。(保育課)

- ・子育て支援センター開設園 24か所 延べ利用者数 52,464人

○保育士確保のために、雇用する保育士の宿舍を法人等が借り上げた費用の一部を補助する保育士宿舍借り上げ支援事業や、保育士の負担軽減のために配置する無資格の補助職員の雇用に必要な経費を補助する保育補助者雇上強化事業を実施した。(保育課)

- ・宿舍借上げ 9園 補助金総額 4,536千円
- ・補助者雇上 7園 補助金総額 6,810千円

### <成果及び今後の取組等>

○老朽施設等を整備することで、安全・安心で快適な保育環境を整えることができたほか、保育需要増加に対応するため新規施設を整備することで、保育園定員も160人(※)増加した。今後も適切な整備を行い、保育環境の整備を推進していく。(教育施設課・保育課)

※ 平成30年度から事業を繰り越した分(40人)を含む。

○各種特別保育事業を実施することで、仕事との両立を支援し、安心して子育てができる環境を整備することができた。(保育課)

○保育人材の確保に継続して努めるため、今後も、事業効果を検討しながら保育士確保に関する各種事業を実施する。(保育課)

## 6) 放課後の児童の預かりサービスの充実(担当:子ども・子育て課)

### <令和元年度の取組>

○保護者の就労などで、留守家庭の小学生を対象に、保護者が迎えに来るまでの間、預かり見守る児童クラブを51クラブ開設し、登録児童3,158人(平成30年度は3,054人)、延べ400,955人(平成30年度は398,592人)が利用した。

学年別登録人数(全児童数に対する登録率)

- ・ 1～3年生：2,974人（46%）
- ・ 4～6年生： 184人（2.7%）

また、放課後発達支援コーディネーターを配置し、配慮を要する児童への対応について、児童厚生員へ助言・指導を行った。

○保護者の勤務実態、通勤事情等のやむを得ない事情がある場合には、開設時間の延長を有料で実施し、延べ56,647人（平成30年度は51,321人）が利用した。

#### <成果及び今後の取組等>

○児童クラブを開設することで、児童が安心して過ごせる遊び場や生活の場を提供するとともに、子ども同士の交流や活動を通して健全育成を図ることができた。今後も、児童クラブの運営の充実に努める。

### 7) 多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり（担当：子ども・子育て課）

#### <令和元年度の取組>

○子育て支援の輪が広がっていくように、市内13か所の子育ての駅において、おじいちゃん、おばあちゃんとのふれあい遊びや、市内の学生によるお楽しみ会など多世代が交流する事業を実施した。子育ての駅全体の来場者数は、246,242人となった（平成30年度は286,815人）。

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| ①ちびっこ広場（長岡地域） 35,742人  | ⑧たんぼぼ（小国地域） 1,487人   |
| ②てくてく（長岡地域） 121,650人   | ⑨わくわく（和島地域） 3,275人   |
| ③ぐんぐん（長岡地域） 51,595人    | ⑩にこにこ（寺泊地域） 1,525人   |
| ④なかのんひろば（中之島地域） 2,380人 | ⑪すくすく（栃尾地域） 7,532人   |
| ⑤のびのび（越路地域） 3,984人     | ⑫にじの子広場（与板地域） 4,385人 |
| ⑥もりもり（三島地域） 6,838人     | ⑬すこやか（川口地域） 5,044人   |
| ⑦やまっこ（山古志地域） 805人      |                      |

○子育て中の保護者10名で構成する「子育ての駅運営委員会」を年6回開催し、子育ての駅の運営について改善点を検討したほか、市民が子育ての駅を気軽に利用できるように、運営委員が主体となり、ママ目線による子育ての駅の利用の仕方についてまとめたポスターを作成した。

○ファミリー・サポート・センターを運営し、地域全体で子育てを支え合う体制の充実を図った。

- ・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 3,266件

○企業から、オレンジリボンキャンペーンの協力をもらった。

#### <成果及び今後の取組等>

○今後も、子育てしやすい環境づくりとして、多世代が交流する場を提供するとともに、利用しやすい施設の運営を行っていく。

○子育ての駅の運営にあたっては、「子育ての駅運営委員会」を設置するとともに、様々な年代の市民から「子育ての駅サポーター」として協力を得るなど、市民参加型の施設運営が実現できた。今後も、子育て支援団体や市民と協働・

連携した子育ての駅の運営の充実に努める。

- 会員の養成講習会を実施し、ファミリー・サポート・センター事業の充実に努めた。今後も、事業を充実し支援体制の強化を図るとともに、登録会員の増加と利用の促進を図る。
- 今後も、関係部署と連携し、企業も含めて子育てしやすい環境づくりを推進していく。

## 8) 保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援(担当:子ども・子育て課)

### <令和元年度の取組>

- 小学校就学前の子どもを持つすべての保護者に、家庭教育等に関する基本的な事項を伝えるため、就学時健康診断などの保護者が集まる機会を活用し、指導主事等による「就学時家庭教育講座」を市内53校で実施した。
- 「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」を推進するため、「お手伝い通信」を年4回発行し、すべての小学校、中学校、保育園、幼稚園の児童・生徒の保護者に配布した。また、小・中学生を対象に、「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」を実施し、146点の応募があった。運動の推進週間には、審査会で選考した26点をさいわいプラザやアオーレ長岡で展示した。
- 幼児、小・中学生の子を持つ親が、様々な子育ての課題にどう対応するかを学ぶ「親も育つ子育てセミナー」を10講座と講演会を2回開催し、延べ529人が受講した。
- 参加者同士の話し合いと交流の中で自分にあった子育て方法を見つけていく「NPプログラム講座」\*を実施した(母親向け及び父親向けをそれぞれ開催)。その他に、子育ての具体的なスキルを学ぶ「子どもとの上手なコミュニケーション講座」や、「思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座」などを実施した。

子育て講座参加者 延人数 270人

- ・母親向けNPプログラム講座 55人(平日・午前/保育付き)
- ・父親向けNPプログラム講座 47人(日曜・午前/保育付き)
- ・子どもとの上手なコミュニケーション講座 65人(平日・午前/保育付き)
- ・子どもとの上手なコミュニケーション講座(幼稚園・保育園等出前講座)  
2か所 31人(平日・土曜日)
- ・思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座 72人(平日・夜間)

※NP(ノーバディーズ・パーフェクト)プログラム講座

「完璧な親なんていない」というメッセージのもとに作られた、カナダ生まれの親支援プログラムで、保護者同士の交流をベースとしたグループワーク方式の連続講座。

### <成果及び今後の取組等>

- 「就学時家庭教育講座」を実施することで、家庭教育の基本的な事項、学校との関わり等の保護者が共通に知ってもらいたい内容について、理解を深めることができた。今後も保護者が集まる機会を利用し、保護者の意識啓発を図る。

- 「お手伝い通信」を定期的に発行したり、ポスターコンクールを実施したりすることで、子どもが家庭で決められた仕事や手伝いを継続的に実施することの有用性や必要性について広く周知することができた。今後は、就学児家庭教育講座や子育てセミナー、市PTA連合会との連携をとおして、親の意識啓発を図るとともに、家庭における子どもの望ましい成長を応援していく。
- 「親も育つ子育てセミナー」は、近年の参加実態を考慮し、コースをなくし通年制とした。また、就業していて昼間の講座に参加できない市民のために、同じ内容の講座を夜間にも実施したり、連続受講のみの申込みから単発申込みも可能としたりしたことで、申込みが大幅に増えた。特に、夜間の講座は人数は少ないながらも、「昼間の講座に参加ができないのでありがたい。」といった声が大半であった。今後も引き続き、実施方法を改善し、より多くの市民が参加でき、また、多様なニーズに応えられるよう見直し・改善を行っていく。
- 「NPプログラム講座」等は、いずれもアンケートの回答内容から参加者の満足度が感じられる結果が得られた。今後も、保育園や子育ての駅での出前講座や、NPプログラムなど多彩な講座を継続していく。

### 9) これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実（担当：子ども・子育て課）

#### <令和元年度の取組>

○中学生を対象に、乳幼児や親子とのふれあい等を通じて命の大切さや子育てについて学ぶことにより、自尊心や自己肯定感を育むとともに、やがて自身も大人となり自立していくという意識の醸成を図る「思春期向け次代の親育成事業」を実施した。

- ・中学校2年生 1校2クラス 58人参加
- ・中学校3年生 6校13クラス 399人参加

#### <成果及び今後の取組等>

○事業実施前と実施後のアンケートにより、「幼い子への愛おしさや命の大切さを感じる事ができた」と答えた割合が9.0%、「自分自身がすきだ・まあすきだ」と答えた割合が17.3%上昇し、事業実施の効果を図ることができた。今後も、なるべく多くの生徒が体験できるよう事業の充実を図っていく。

## 3 質の高い教育の推進

### 1) 熱中！感動！夢づくり教育の推進（担当：学校教育課）

#### <令和元年度の取組>

○令和元年度も、「どの子にも分かる授業の実現」、「地域の力、市民の力を生かした教育の推進」、「熱中・感動体験の充実」の3つの方策の下、熱中！感動！夢づくり教育を推進した。児童生徒に豊かな体験と確かな学びで夢を描き志を立てる力と生き抜く自信を育むことを目指して、関係機関等と

連携しながら合計71事業を実施した。

- 熱中！感動！夢づくり教育の取組を市民等に周知するため、パンフレットを作成・配布した。教員向けの事業紹介パンフレットは、授業等で活用できる事業を一覧にして、対象学年や教科等を入れるなどの工夫を行った。また、熱中！感動！夢づくり教育をより広く周知するため、フェイスブックを活用し、様々な事業の発信を行った。

#### ＜成果及び今後の取組等＞

- 全71事業を通して、多くの児童生徒に熱中・感動体験やどの子にも分かる授業を経験してもらうことで、社会性とコミュニケーション能力や、ふるさと長岡への愛着や誇りを土台に社会に貢献できる資質・能力を育むことを支援することができた。
- 熱中！感動！夢づくり教育の取組をフェイスブックを活用して保護者等に広く周知することで、市の目指す教育について理解・関心を深めることに効果が得られた。また、教員向けの事業紹介パンフレットは、授業で活用する具体的なイメージが持てると好評であった。今後も、熱中！感動！夢づくり教育を紹介する様々な媒体を最大限活用し、更なる周知に取り組む。

## 2) どの子にも分かる授業の実現（担当：学校教育課）

### ＜令和元年度の取組＞

- 学習指導、生徒指導等の補助業務を行い、教育活動の充実を図るため、教育補助員50人を配置した。
  - ・小学校32校（29人）、中学校21校（21人）
- 外国語を通して、国際社会に通用する表現力やコミュニケーション力を身に付けさせるため、英語指導助手（ALT）と英語指導員（JTL）を全小・中学校に派遣した。
  - ・小学校 ALTを低学年3時間、中・高学年に2時間  
JTLを高学年に35時間
  - ・中学校 ALTを全学年2.5週間に1回程度
- 様々な知識・技術等を持った専門家を学校に招いて豊かな体験と学ぶ楽しさを提供するため、地域の人材や市民協働課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいた。
- 児童に体を動かすことの楽しさを味わわせ、運動への興味・関心を高めるため、小学校の体育授業に専門的な知識や経験、技能をもつ指導員をアシスタント指導者として派遣し、コーディネーショントレーニング\*を取り入れた「ながおか元気ZZプログラム」を実施した。
  - ・派遣校数 小学校26校

※コーディネーショントレーニング

状況を目や耳等の五感で察知した後、筋肉を動かす一連の動きをスムーズに行うなどの能力を高めるための運動方法。

○教育センターでは、「どの子にも分かる授業の実現」に直結する教職員の人間性や専門性を高めるため、教員サポート錬成塾、研修講座、要請研修などの研修事業を実施した。

#### ＜成果及び今後の取組等＞

○学習指導や生徒指導等において特に支援が必要とされる学校に教育補助員を配置したことにより、チームティーチングや個別指導が充実し、児童生徒の学習規律の定着や学習意欲の向上にも成果が見られた。

○派遣しているJTLが、教科化に向けて大きく変わる外国語活動の動向を踏まえて、授業づくりのサポートを学級担任にマンツーマンで行ったことにより、学校から高い評価を得た。また、ALTの派遣も児童生徒のコミュニケーションの機会、学習への意欲付けの面で効果的であった。令和2年度よりJTLを小学校の中学年の全クラスにも年間10回程度派遣する。

○「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ1,404人以上の指導者が教育活動に参画し、豊かで多様な体験活動を実施することができた。

○体育授業に専門的な知識・技能をもつアシスタント指導者を派遣し、運動能力に関わらず、楽しみながら学ぶことで、「体幹からしっかり体を動かすことができた。」、「回数を重ねるにつれて、子どもたちの動きの精度が高まった。」等の効果があった。

○教育センター研修講座には、延べ2,704人の教職員の参加があった。また、各校からの依頼に基づき138回の要請研修を実施した。研修講座、要請研修を通し、教職員の資質・指導力の向上が図られ、分かる授業の実現につながった。今後も、新学習指導要領へ対応する研修講座、要請研修を行う。

○教育センター錬成塾では、錬成塾ベーシック（基礎・基本）コースに63人、クリエイティブ（応用・発展）コースに37人の教職員が参加し、嘱託指導主事のマンツーマン指導の下、子どもへの対応力や教師としての使命感、指導技術など教師力の向上を図ることができた。

### 3) 地域の力、市民の力を生かした教育の推進（担当：学校教育課）

#### ＜令和元年度の取組＞

○開かれた学校づくりを推進するため、中学校区単位で地域連携フォーラムを実施した。また、第18回いきいき教育推進懇談会では、ネット依存に関する講演会と保護者、教職員の代表による座談会を行った。

・地域連携フォーラム（27中学校区全部でそれぞれ実施）

・いきいき教育推進懇談会（2月7日 長岡リリックホール・シアター 保護者、教職員、地域連携を推進する地域住民等約400人が参加）

テーマ「ネット社会を生き抜く子どもを育てるために

～家庭・学校・地域のそれぞれができること～

講 師：医 師

樋口 進 氏

パネリスト：市P連副会長	長谷川 和明 氏
新町小学校 教諭	松井 佳奈子 氏
越路中学校 教諭	土倉 秀夫 氏
長岡市教育委員会教育委員	大久保 真紀 氏

○地域と学校が連携して長岡の子どもたちを育てるため、地域の人材や市民協働課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいた。

#### <成果及び今後の取組等>

○地域連携フォーラムは、各中学校区の実情に応じたテーマ・内容を設定することにより、保・幼、小、中学校の保護者・教職員及び地域の教育等関係者が参加し、連携意識を高めることができた。また、いきいき教育推進懇談会では、ネット社会において「親が一方向的にルールを設定するのではなく、子どもと話し合い両者が納得したルールを決めてゲーム時間を減らしていくことが効果的」など新たな知見を得る機会となり、95%が肯定的に評価した。今後も市全体で学校・家庭・地域が連携した取組を充実させ、子どもの健全育成と地域の活性化につなげる。

○「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ1,404人の地域の人材が教育活動に参画することで、地域の力や市民の力を生かした教育を推進することができた。

#### 4) 「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実

(担当：学校教育課)

##### <令和元年度の取組>

○熱中！感動！夢づくり教育の3つの大きな柱の1つである「熱中・感動体験の充実」（全49事業）を4つに体系化して実施した。

- |                    |      |
|--------------------|------|
| ・個性・能力を伸ばす事業       | 25事業 |
| ・感性・情操を豊かにする事業     | 4事業  |
| ・地域・自然を愛する心を育む事業   | 13事業 |
| ・社会の一員としての意識を高める事業 | 7事業  |

##### <成果及び今後の取組等>

○「プログラミング教育推進事業」では、ロボット型情報端末（ロボホン）を活用したプログラミングを体験する出前授業を、令和2年度からの小学校の新学習指導要領全面実施に先駆けて実施した。希望した小学校は54校で、延べ176回、約4,500名の児童が出前授業を受講した。事後のアンケートでは、「最初は操作できるか不安だったけど、優しく教えてもらい、プログラミングについてわかりました。自分の指示通りに動かせたので驚きました。」など、教員、児童、保護者の感想は、ほぼ100%の肯定的評価が得られた。今後は一人一台の環境で出前授業を実施して内容の質的な充実を図る。

○学校・子どもかがやき塾事業の夢企画事業特別枠として、小学校8校で実施

したアルビBB「ながおか夢授業」では、「夢を叶えるための努力をしっかりとっていてすごいと思った。」、「長岡花火や雪など、選手の考える長岡のよさを聞いて、改めて長岡はいいところだと思った。」など、夢や目標に向かって努力することの大切さや、ふるさと長岡への愛着や誇りに気づく機会となった。今後は児童一人ひとりが自らの価値を見つけて、自分らしく社会を生き抜く力を育むことを視野に入れ、活動の見直しを図る。

- 個々の事業については、成果及び課題、参加数、参加者の声などを参考に、実施の可否を含め、目的、実施時期、内容等の見直しを行い、より一層の充実を図る。

## 5) 学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備 (担当：教育施設課)

### ＜令和元年度の取組＞

○安全・安心で快適な教育環境を整備するため、老朽化の進行や教室が不足する学校について、校舎の大規模改造等の工事に着手した。

- ・豊田小学校校舎増築工事（令和元年度単年度事業）

- ・越路小学校校舎等大規模改造工事

（平成30年度から令和元年度までの継続事業）

- ・西中学校校舎増築・大規模改造工事

（平成30年度から令和2年度までの継続事業）

また、快適な教育環境を整備するため、トイレ改修工事及び普通教室等冷房整備工事を実施した。

①トイレ改修工事 5校

②普通教室等冷房整備工事 64校

### ＜成果及び今後の取組等＞

○トイレの洋式化と衛生環境の向上を図ることにより、子どもたちの快適な利用を実現することができた。また、普通教室等冷房整備工事の実施により、夏期の学習環境を改善することができた。今後も適切な整備を計画的に進め、安全・安心で快適な教育環境を整備していく。

## 6) 通学路における児童・生徒の安全確保（担当：学校教育課）

### ＜令和元年度の取組＞

○登下校時の通学路及び校区における児童生徒の安全確保を図るため、セーフティパトロール事業等を推進したほか、学校や警察から報告を受けた不審者情報を小・中学校及び関係機関に提供した。

①警察・道路管理者・教育委員会・学校（地域）合同の通学路合同一斉点検の実施 全小学校区（小学校55校区）

②通学路点検の実施 全中学校区（中学校27校区）

③地域住民によるセーフティパトロール団体数 55団体

④学校教育課が小・中学校、関係機関へ提供した不審者情報 37件

#### <成果及び今後の取組等>

- 通学路の合同一斉点検により、通学路のハード面の安全対策が大きく進んだ。
- 市内55小学校区でセーフティパトロール団体等による子どもの安全を守る活動が実施された。
- 引き続き、「長岡市通学路交通安全プログラム」に基づき、関係機関と連携しながら児童生徒の安全な登下校を確保する取組を進めていく。

### 7) 食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進

(担当：学務課)

#### <令和元年度の取組>

- 教育委員会(学務課・保育課)主催の食物アレルギー研修会を年2回実施した。
  - ・第1回(令和元年7月16日) 参加者 教職員等46名 保育関係者等 39名
  - ・第2回(令和元年11月21日) 参加者 教職員等84名 保育関係者等113名
- 学校給食における食物アレルギー対応について、市内アレルギー専門医、栄養教職員・養護教諭・学級担任・学務課職員で検討会を実施した。
- 学校の給食だより等で食物アレルギーに関する情報を保護者に提供した。

#### <成果及び今後の取組等>

- 食物アレルギー研修会では、全教職員を対象とした基礎知識の研修と、アドレナリン自己注射薬が処方されている子どもが在籍する園・学校を対象とした救急対応実技研修を行ったため、教職員等の知識や救急対応の実践力を高めることができた。また、学校生活すべての場面において、食物アレルギーをもつ子どもが安全に過ごせるよう、専門医と連携して、各学校に備える長岡市学校保健の手引きのうち、食物アレルギーの内容を整理するなど、見直しを行っていく。
- 今後も日常的に保護者と連携し、家庭での食事や学校給食等で新たに食物アレルギー症状が出た場合には、医師の指示や保護者との面談に基づき学校での対応を決定する。また、誤食が発生した際には原因を追究し、再発防止策を学校と検討していく。
- 家庭科など食に関連する教科等の学習を通じて、食物アレルギーがある子ども、ない子ども平等に、食の知識を深めさせる。また、食物アレルギーがある子については、自ら対応できる力を育てるよう、家庭と連携した取組を進めていく。

### 8) 子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実

(担当：学校教育課)

#### <令和元年度の取組>

- 「子どもふれあいサポート事業」において、いじめをはじめとする問題行動・不登校・児童虐待など、子どもをめぐる様々な問題への対応を実施した。
  - ①サポートチームの活動 69ケースに対応

・サポートチーム会議（関係機関との連携） 36件

・サポートチーム会議（要対協との連携） 33件

②「子どもサポートコール」相談件数 110件

③適応指導教室（「長岡フレンドリールーム」、「栃尾やまびこルーム」、「寺泊はまちゃん教室」、「おぐに日だまりルーム」）の設置及び訪問相談員の派遣

④心ふれあい相談員の学校への派遣 21人29校へ派遣

○不登校児童生徒の学校復帰を支援するため、適応指導教室の運営や訪問を実施するとともに、教育相談の充実を図った。

○不登校児童生徒の居場所が多様化傾向にあることから、NPO法人が運営する施設を訪問し、情報収集・情報交換を行った。

○心のケアを必要とする児童生徒への適切な支援が学校全体で行われるよう、教職員の資質向上を図った。

### <成果及び今後の取組等>

○困難な事例に対して、各関係機関がより専門的な立場に関わることで、明確に役割を分担し、迅速で適切な対応を取ることができた。特に、いじめに関しては、校内における子どもたちへの丁寧な見守りを行い、いじめに関する案件を早期に把握・共有し、解決に向けた指導を行ったことで、重大な事態の発生を防ぐことができた。今後も、更に連携を深めるため、相談機関の実務担当者による情報交換会を定期的実施する。

○適応指導教室では、児童生徒の状況に応じて、学習以外にも体験活動や人間関係づくり等の多様な活動を行い、児童生徒の適応を促すことができた。更に学校との連携を深め、適応指導教室の通級や訪問相談につなげる。

○不登校児童生徒を受け入れている民間施設等の訪問により、民間団体の取組や児童生徒の活動実態を確認することができた。今後も、施設訪問や民間団体との情報交換等を継続し、不登校児童生徒への支援策を検討する。

○教育センターで教育実践講座を実施し、教職員の資質向上を図った。引き続き、カウンセラー（臨床心理士）との連携により、質の高い支援を行う。

## 9) 特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システム<sup>※</sup>の充実（担当：学校教育課）

### ※インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

### <令和元年度の取組>

○特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援を充実させるため、介助員等の人的支援や特別支援学級の新增設等環境整備の充実を図った。

- ①特別支援学級の新增設 小学校20学級、中学校4学級
- ②総合支援学校・高等総合支援学校への介助員・作業支援員・看護師の配置  
介助員21人、作業支援員9人、看護師3人、代替看護師1人  
付添看護師派遣7回
- ③特別支援学級への介助員の配置 59校120人
- ④通常学級への特別支援介助員の配置 16校17人
- 合理的配慮の提供の視点をもとにインクルーシブ教育システムがより充実するよう、インクルーシブ教育システムコーディネーターが市内全学校を訪問し、指導した。
- 保・幼、小、中学校が連携して保護者との合意を重視した就学相談を行うため、各中学校区に専門相談員を依頼し、専門相談員が中心となった就学相談の充実を図った。また、関係課と連携して就学校に必要な設備設置を決定するなどして、学校環境の整備・充実にも取り組んだ。
- ①専門相談員の依頼 125人
- ②就学に関する相談件数 582件（前年度455件）
- 教育、福祉、医療、労働をつなぐ拠点である総合支援室において、総合支援コーディネーター1人、専門の嘱託員2人が関係機関と連携しながら、卒業生を含めた児童生徒の生活支援・就労支援の充実を図った。また、早い段階から継続した支援が受けられるよう、学校教育課が相談窓口となり、各専門機関をつなぐ体制を整えた。
- 相談対応件数 2,201件
- 専門相談員による就学相談の進め方や合理的配慮提供の考え方などをわかりやすくまとめた「教育支援ハンドブック」を作成し、各校へ配付した。

### ＜成果及び今後の取組等＞

- 介助員の配置や特別支援学級の新增設により、特性に応じたきめ細かな指導・支援を行い、自己肯定感を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や社会性の向上等の成果が見られた。
- 市内全学校で、合理的配慮の提供に確実に取り組むことができた。今後、各校のインクルーシブ教育システムがより充実していくよう、学校訪問を通じた継続支援に努める。また、中学校区による連携を深め、切れ目のない特別支援教育を継続していくために、中学校区相談会や、特別支援学級の授業づくり研修会を推進する。
- 肢体不自由特別支援学級等の在籍児童生徒のニーズに対応し、丁寧な就学支援相談により施設整備が充実するなど、適切な合理的配慮が行われた。
- 総合支援室の相談では、相談内容によっては、課題が複雑化したり長期化したりするケースがあるため、必要に応じ、関係機関の連携強化により一層取り組み、充実したサポートに努める。
- 教育支援ハンドブックの見直しを行い、より現場のニーズに合ったものに修正する。このハンドブックを有効に活用し、インクルーシブ教育システムの理解

啓発や、各種手続きの明確化、効率化を図る。

## 10) 私学の振興と家庭の教育費負担軽減（担当：学務課）

### <令和元年度の取組>

○私立高校就学者の保護者の経済的負担を軽減するため、学費の助成を行った。  
また、市内の私立高等学校3校に対し、運営費を補助した。

・学費助成金総額 9,100千円

・運営費補助金総額 19,367千円

### <成果及び今後の取組等>

○私立高校就学者の保護者に対する経済的負担軽減や、私立高等学校の健全経営のための支援を継続していく。

## 11) 長岡市SNSセーフティープログラム<sup>※</sup>に関する取組

（担当：学校教育課・子ども・子育て課・保育課）

※長岡市SNSセーフティープログラム

情報モラル教育の確実な取組を推進し、子どもたちの生活習慣のみだれやインターネットの不適切な利用、SNSによるトラブルを未然に防止するため、子どもの発達段階に応じて啓発活動等を体系づけたプログラム。

### <令和元年度の取組>

○全小中特別支援学校から教職員が参加し、SNS時代に必要な情報モラル教育について、研修会を開催した。授業や保護者向け講話会で役立つ最新情報や実践例を学び、各学校の取組に生かした。（学校教育課）

○情報モラルN a v i（授業案や資料等）等を活用した授業を各学年1回以上実施した。（学校教育課）

○各学校において、市生徒指導研究会が昨年度実施した「家庭生活実態調査」によるSNSの利用実態結果を踏まえて、SNSの適切な利用について児童生徒へ指導した。（学校教育課）

○市生徒指導研究会で、ゲーム依存に関する講演会を開催した。（保護者、教職員等約400名参加）（学校教育課）

○ネット社会を生き抜く子どもを育てることをテーマに、「いきいき教育推進懇談会」を開催した。（保護者、教職員等402名参加）（学校教育課）

○「広めよう！市P連ルール<sup>※</sup> 啓発標語コンテスト」の入賞標語を学校教育用パソコンへモラルメッセージとして配信した。（学校教育課）

※市P連ルール

長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会が策定したSNS利用のルール。

○子育ての駅等での講座や、こんにちは赤ちゃん訪問、赤ちゃん相談、1歳6か月・3歳児健診時にリーフレットを配付し、親子のふれあいの大切さや家庭でのメディアとの望ましいつきあい方を伝えた。（子ども・子育て課）

○就学時健康診断などの保護者が集まる機会を活用した「就学時家庭教育講座」

において、子どものSNSやゲーム、テレビ等のメディアとの関わりについて講義し、周知を図った。(子ども・子育て課)

○小・中学生の子を持つ親向けの子育て講座「親も育つ子育てセミナー」において、子どもを取り巻くインターネットやスマートフォン利用の現状について、各講座の中で注意喚起を行った。(子ども・子育て課)

○外部講師を招いた保護者向けの講座を開催し、スマートフォンやSNSの利用について学習した。(保育課)

### ＜成果及び今後の取組等＞

○教職員へ研修会を開催したことにより、多くの学校でのSNSの危険性と望ましい利用の仕方についての学習会や講演会の開催や、いじめ見逃しゼロスクール集会での意見交換等につながった。その結果、児童生徒・保護者がSNSの適切な利用の仕方について学ぶことができた。(学校教育課)

○次年度も教職員向けの研修会を実施し、教職員の意識を高め、各校での具体的な取組や情報モラル教育の推進につなげていく。(学校教育課)

○引き続き各学校で、「家庭生活実態調査」の結果を活用しながら、児童生徒への適切な指導を継続する。(学校教育課)

○各種講演会に参加した保護者や教職員は、ゲームやSNS利用に関する家庭や学校の役割等について学ぶことができた。また、学校と家庭、地域が連携して取組を進めて子どもたちを導くことの重要性を確認することができた。今後も、ゲームやSNS使用をテーマとした講演会を開催するなどの取組を進めていく。(学校教育課)

○SNS利用の「市P連ルール」のパソコンへの表示、情報モラルに関する授業により、児童生徒・教職員のSNSの適切な利用に対する意識を高めることができた。(学校教育課)

○乳幼児の保護者への啓発活動に引き続き取り組む。(子ども・子育て課)

○「就学时家庭教育講座」や「親も育つ子育てセミナー」での講義、「市P連ルール」の各啓発活動を通じて、子どものSNS利用に関する注意事項など、多くの保護者や子どもの理解を深めることができた。今後も保護者が集まる機会等を利用し、更なる意識啓発を図る。(子ども・子育て課)

○外部講師を招いた保護者向けの講座（「幼児家庭教育講座」）の開催により、家庭等でのスマートフォンとのつきあい方の理解を深めることができた。(保育課)

○「長岡市SNSセーフティープログラム」について、今後も、各課及び関係機関が連携して実践することにより、情報モラル教育の確実な取組を推進していく。(学校教育課・子ども・子育て課・保育課)

## 4 生涯にわたるまなびの場の充実

### 1) 市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備

(担当：中央図書館・科学博物館)

#### <令和元年度の取組>

- 中央図書館の自主企画展「長岡市立中央図書館所蔵版画展」では、22日間で1,888人の入場があった。また、エントランスに貴重資料を展示した。(中央図書館)
- 長岡市や新潟県に関する資料約2,200冊を受け入れるとともに、所蔵する郷土資料の目次情報のデータ整備を行った。また、最近ニーズが増加しているビジネス書について全館で650冊を追加購入した。(中央図書館)
- 展示・研究の基礎となる収蔵資料の保管環境整備やくん蒸・修復等の資料整備、植物の樹脂封入標本等の展示物制作等を通じて学習環境の整備を行った。また、馬高縄文館で縄文土器の精緻な修復を行い、展示内容の向上を図った。(科学博物館)

#### <成果及び今後の取組等>

- 自主企画展では、郷土に関する所蔵資料を活用することができた。今後も所蔵資料を活用した魅力的な展示会を実施していく。(中央図書館)
- 資料の充実と目次情報のデータ整備により利用者の利便性の向上を図り、個人貸出冊数が約3%増加した。今後も、市民ニーズに対応した資料選定をするとともに、ホームページやチラシを活用して課題解決に役立つ図書館の便利な使い方をPRしていく。(中央図書館)
- 博物館等の設備・展示について、学習環境を充実することができた。今後も、来館者の反応に目を向けながら、学習意欲の増進につながるような整備に努めていく。(科学博物館)

### 2) 民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備 (担当：中央図書館)

#### <令和元年度の取組>

- 中心市街地整備室が中心となり、まちなか図書館を含めた複合施設である米百俵プレイス(仮称)の実施設計について検討した。

#### <成果及び今後の取組等>

- 今後は、「人づくり・学び・交流」をキーワードとした図書館機能を含む複合施設の運営方法や互尊文庫の移転について更に検討する。

### 3) 市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援 (担当：中央図書館)

#### <令和元年度の取組>

- 栃尾美術館において、長岡ゆかりの作家を紹介する「響きあう色彩Ⅱ 桐生照子展 ～ふるさとに心をよせて～」のほか、「山際にふれる 小林花子展」、御

殿場のキルトミュージアムから作品を借用した「キャシー中島 キルトの世界展」などの展覧会を開催した。また、気軽に美術に親しめるワークショップ「夏休み☆まいにち工作」、作家から本格的な技法を学ぶ造形講座など、年間を通して美術館で文化・芸術に関わるイベントを開催した。中央図書館美術センターでは、自主企画展の開催や文化芸術活動の発表の場として市民への貸出を行った。

#### <成果及び今後の取組等>

○栃尾出身（現鎌倉市在住）の新潟県を代表する洋画家桐生照子氏の展覧会を18年ぶりに開催し、長岡市民に広く周知した。また、キルト関連の展示は、当館初めての企画であり、新たな利用者の掘り起こしを行うことができた。あわせて、遠方の美術館の持つ貴重な作品を紹介することで、身近な場所で様々な文化・芸術にふれる機会を市民へ提供した。今後も、開催することに意義のある展覧会や普及活動の企画を目指していく。





令和2年8月17日

長岡市教育委員会  
教育長 金澤 俊道 様

長岡市教育委員会事務評価委員会  
委員長 熊倉 達也  
副委員長 渡辺 美子  
委員 高野 真規

## 教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

令和元年度に執行された長岡市教育委員会の会議、施設訪問、事務事業の内容及びその点検結果について、教育長並びに事務局職員からヒアリングを行い、長岡市教育委員会事務評価委員会として点検、評価を行った。

当委員会の点検、評価結果については以下のとおりである。



## ●全体を通しての意見

- 「長岡市教育振興基本計画」に沿って着実に施策が実施され、成果を挙げてきている。一つ一つの内容について、丁寧に継続して取り組んでいる様子が感じられる。
  
- 社会の課題や市民の多種多様なニーズに応え、子どもたち一人ひとりの個性を尊重しようとする姿勢が感じられる。妊娠・出産・子育て、就学・学校生活といった時系列の中で生じる問題への対応にあたり、関係機関との連携を重視し、きめ細かな対策がなされていることを大いに評価する。今後は、大学や附属学校・園等、市内所在の教育機関・研究機関とのより一層の連携強化を望む。
  
- 子どもや保護者に寄り添い、それぞれの現場を大切にしながら教育環境の充実に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症対策においても、教育委員会として必要な予算を確保するとともに、情報収集、情報提供、ガイドラインをはじめとする各種指示を的確に行い、現場の不安の解消や教育の質の維持に努めている。
  
- 人づくりの視点と同時に、人口減少に歯止めをかけるため、教育行政としても具体的な施策の検討が必要である。

## ●各施策についての意見

### I 教育委員会の開催及び審議状況等について

教育委員が地域の実情を知る努力を惜しまず、教育・子育てに熱意と責任感を持って取り組んでいる様子が伝わってくる。

定例会、臨時会、協議会と適時・適切に実施されている。活発な意見交換、事務局との密接な連携が行われており、安定感・信頼感がある。会議録の公開により透明性は高いと考えるが、ホームページに公開するまでのスパンがもう少し短くなると良い。また、会議録の文言が堅い印象を受けるため、よりわかりやすい記載方法にするなどの工夫が必要であると考えます。

定例会と施設訪問の日程があらかじめ周知され、教育委員全員の参加が可能となっていることは評価できる。その結果、教育委員による現場の状況把握が図られていると考える。子どもが生まれた直後に必要となる施設から、子どもの成長に応じて関係する施設まで広く訪問していることは評価できる。

新教育大綱策定に3回の総合教育会議が開かれ、細かな文言についても納得のいく協議が行われている。また、その様子が、ホームページに掲載された会

議録で分かりやすく伝えられている。引き続き、総合教育会議等において、市長との意見交換を活発に行い、「教育」の視点が市行政により反映されることを期待する。

## Ⅱ 教育委員会における事務の点検・評価について

### 1 郷土愛の醸成による人材の育成

郷土を愛する心を育む教育を人材育成の中心に据えることは極めて重要である。学校が、地域やNPOと連携し、地域の特色を活かした活動を行うことによって、子どもたちの地域愛が育まれている。学校と地域やNPO、専門家との連携にあたっては、マッチングをする中間支援的な人や組織が必要であり、教職員をサポートするため、地域のことを知る適切なコーディネーターの活用を望む。また、冊子「ながおか学」の幅広い活用は、評価できる。今後も、児童生徒用資料に関して、実際に資料を活用する教師の視点も加味しながら、不断の見直しが必要である。学校・子どもかがやき塾夢企画は、学校が特色ある教育活動を展開する上で非常に有効に機能している。

「米百俵未来塾」は、志を持った子どもたちが学校を超えた交流を図り、ともに学ぶことができる貴重な機会であった。様々な組織とのコラボレーションを行い、多様な学びの場を提供したことは評価できる。また、新潟日報の紙面での紹介もあり、市内外に長岡市の人材教育を知らしめることができた。学校外における異年齢との活動は、子どもたちの成長が期待できる。引き続き、事業が継続するための工夫をし、多くの子どもたちの学ぶ場の提供を望むとともに、今後の展開に期待する。

地域以外の大舞台で伝統芸能を披露することは、芸能を継承する団体にとって励みになることと考える。

歴史的・文化的資料の収集、整理、展示などが継続的に行われている。専門家の確保・育成とともに、県立施設などとの連携を密にした取組を望む。また、長岡の自然、歴史、文化、人物などを一元的に、しかも楽しみながら学習し、理解を深められるような取組を望む。

博物館等の学芸員が、積極的に学校等に出向いて普及に努めていることは評価できる。

教職員への平和研修が、各学校での特徴ある学習発表につながっているように、教職員が郷土長岡や「米百俵の精神」について学ぶ機会を設けることは、子どもたちに良い影響を与えることである。今後も、教職員が郷土長岡を学ぶ意欲の醸成と機会の確保を望む。

### 2 子ども・子育て支援の充実

人口減少や働き方の変化により社会情勢が大きく変わり、市民にマッチした

施策を進めていかなければならない中、常に支援に対するニーズを把握し取り組んでいる。「長岡版ネウボラ」を進めることで、妊娠から出産・育児への切れ目のない支援が一層充実したことは素晴らしい。今後も、助産師等による訪問を通じて母子の情報を把握し、必要な支援を受けられる体制の維持に努めてほしい。また、「パパママサークル」をはじめ、家族で子育てをする意識を醸成する機会を設けていることを評価する。

特別な支援が必要な子どもやその家庭への支援体制が充実してきていることは評価できる。多様化、複雑化している子どもの発達段階におけるニーズに、きめ細かく、スピーディーに対応する姿勢がうかがえる。

子育て支援員の認定事業は、保育に興味のある人材を発掘し、就労へ結びつけるきっかけとして評価できる事業である。事業の目的は、子育て支援員が保育所等に就労し、保育の質を向上させていくことであり、研修会後のフォローが重要であるため、就労につながるようマッチングの活動をより積極的に行ってほしい。今後も、保育需要の受け皿を確保するなどし、働きながら安心して子育てする環境の更なる整備と各種支援の利用促進の広報を望む。

児童クラブの登録者数を昨年度と比べると、低学年の登録が増加する一方で高学年の登録が減少するなどの変動が見られるため、学年ごとの登録人数やニーズを把握し、子どもたちが安心して過ごせるよう運営の充実に努めてほしい。また、「放課後子ども教室」との一体的な取組を進め、高学年も興味を持つようなプログラムや子どもたちが自ら考え行動するような活動を取り入れ、地域の友達とともに成長する時間としてほしい。地域の大人だけではできないことは、NPOや企業の地域貢献活動などを活用してほしい。

社会全体で子育てを支援するためには、多様な視点が必要になる。「子育ての駅運営委員会」をはじめ様々な事業や取組において、母親目線だけではなく、様々な世代、立場の方の意見を取り入れていくことが重要である。今後も、子育ては親だけが抱え込むものではなく社会全体で取り組むものであるという理念を広く共有し、各種施策に反映してほしい。

「就学時家庭教育講座」に代表される家庭教育支援がしっかり行われている。親が自身や家庭の役割を深く理解し、子育ての実践ができるよう、一層の施策展開を期待する。「親も育つ子育てセミナー」について、対象者の生活を考慮した開催日の設定や時間帯の変更により、より多くの参加者を得られたことは素晴らしい。今後も、市民のニーズを把握し、参加しやすい充実したセミナーの開催を望む。

### 3 質の高い教育の推進

熱中！感動！夢づくり教育について、事業の精選とともに、「学校で行うこと」、「地域社会で行うこと」の体系化が行われ、わかりやすくなってきている。

また、周知活動に力を入れていることはよい。

教育センターが実施する教職員研修は、ニーズに的確に応じた内容になっている。特に、「教員サポート錬成塾」は若手教員の育成に効果的に機能している。現在、個別最適化を目指した授業づくり、プログラミング教育やリモート授業の実施が求められている。そのため、今後は教育補助員の増員、ICTサポーターによる業務内容改善など、GIGAスクール構想を踏まえたソフト面や人的支援の一層の拡充が必要である。

「いきいき教育推進懇談会」は、現代の気になる話題をテーマとし、専門家が登壇することで、多くの参加者が得られたことは評価できる。

熱中・感動体験の事業は、わくわく感や感動を児童生徒に与えることができる良い事業といえる。ロボホンを使ったプログラミングの出前授業など、今必要な事業をタイミングよく実施している。

冷房施設の整備は学校現場の状況に配慮しながらスピーディーに進めることができた。

児童生徒の様々な案件や事故に対して、当事者に寄り添いながらも、場合により教育委員会として毅然とした対応を取っていた。また、不登校児童生徒の居場所が多様化傾向にある状況において、NPO法人が運営する施設を訪問し、情報交換するなど連携を進めていることは評価できる。

介助員の配置が進み、インクルーシブ教育推進の基盤が整備されていることは評価できるため、更なる配置拡充を進めてほしい。また、総合支援室における児童生徒の就労支援の更なる拡充を期待する。

SNSの問題点や対応について、まず教職員に対して研修で理解を深めた点はよい。SNS等の急速な変化により不安に感じている保護者が多いため、子どもだけでなく保護者にもSNSの利用に関する正確な情報をスピード感を持って伝えていく必要がある。今後も、ニーズを把握し、意識啓発と情報発信を行ってほしい。

#### 4 生涯にわたるまなびの場の充実

「米百俵プレイス（仮称）」内のまちなか図書館は、人づくり・学びの拠点としてしっかりと位置づけ、ニーズに対応した選書を行うなどし、市民が誇れるような図書館となることを望む。今後の「米百俵プレイス（仮称）」の整備・活用に期待する。

栃尾美術館は、市民の活用に適した大きさであることもあり、市民ギャラリーの利用が進んでいる。企画展においても、大きな美術館では実施できないような独自性やこだわりのある企画が多く、今後も期待する。



